

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991300096		
法人名	株式会社 TAKK		
事業所名	認知症高齢者グループホーム さくらハウス		
所在地	那須塩原市高林1931番1		
自己評価作成日	平成25年9月17日	評価結果市町村受理日	平成25年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な雰囲気の中でのんびり過ごしていただけるように、時間にとらわれず、ご自分のペースで生活できるよう、また、ご自分の能力を発揮できる機会をつくり、得意なことや、やれる行為を継続的に実行するような体制を整えたい。</p>

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人アスク		
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189		
訪問調査日	平成25年10月25日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>昨年までは法人の理念に基づき運営していたが、今年度は事業所独自の理念を全職員で作っている。その作業過程での話し合いが有意義で、職員の意見が反映されて「納得がいく」理念が作られたと職員は感じて実践に活かそうとしている。今後は理念に盛り込まれた「笑顔あふれる暮らし」に向けて更なるサービスの質の向上につなげていく努力が期待できる。毎月の勉強会では、「虐待防止に関して」、「事業所独自の理念の作成」、「業務改善」など様々なテーマで学び、改善策が話し合われている。骨折で入院し、歩行も言葉も不自由になって車椅子で退院してきた入居者が、トイレという言葉や行動に反応することに気づき、「歩いてトイレに行く」ことを目標とした介護計画を立て、半年後に目標を達成する等個別支援を丁寧に行っている。日々の介護に追われるだけでなく、目標を持って支援する事で成し遂げた事例を糧に更なる発展を期待する。</p>

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念に沿った、グループホーム独自の理念を職員間で相談し作ったことで、より具体的に理念を共有し始めている。	昨年までは法人の理念に基づき運営していたが、今年になり、事業所独自の理念を全職員参加で作っている。事業所独自の理念を作るために月1回開催される勉強会で「何が必要か、何をすべきか」と、一人ひとりが考えを出し合う中で出てきた共通の言葉が「笑顔」であった。その言葉をキーワードに理念を作り上げている。理念を作り上げるために話し合われたことが、その後の実践の基となっている。	昨年の外部評価で、事業所独自の理念を作ることを期待したところ、早速、外部評価後目標達成計画に盛り込み、全職員で理念の作成に取り組んだ。この様に課題に取り組む前向きな姿勢を続け、更なる質の向上を目指して欲しい。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校との交流会や、ボランティアの慰問、蕎麦打ち等を実施している。	自治会に加入し回覧板を回すことはしているが、事業所付近は人家が少なく、隣家と離れている地域なので近所とのつきあいが困難である。それでも開設1年目から地域の高林小学校との交流会を行い、地域のボランティアの訪問を受け入れるなど交流の機会を作っている。また、昨年の敬老会に参加してくれた市内のレクリエーション協会とのつながりは続いている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校との交流会等を通じ、児童と高齢者の関わりの中で認知症を有していても会話を楽しめたり昔の知恵を教わることができることを伝えている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状態や行事、外出等の報告をし意見を参考にし、職員教育やサービス向上に努めている。	運営推進会議のメンバーに地域の民生委員が全員加わっている状態は継続され、活発に意見が出されている。また、運営推進会議の中で、地域包括支援センターの職員から成年後見制度の話や、認知症を取り巻く課題についての学習の機会にもなっている。事業所で起きた様々な出来事を報告し、要望・意見を聞いて、改善に活かしている。	運営推進会議への家族の出席者が少ないので、事業所だよりで会議の内容を知らせている。家族から運営推進会議の内容が良かったと感想が寄せられているので、今後も会議の内容を家族に知らせることを続けながら、出席者の増加につながるような工夫も試みて欲しい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連携は図れている。事故等や職員のトラブルに関しても速やかに報告し指示を仰いでいる。	事業所だけでは対応できない出来事が起きた時や事故等が起きた時など、市の担当者から対応の仕方などのアドバイスや指導を受けている。事故等の後の再発防止に対しても適切なアドバイスがある。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「ちょっと待って。」「危ないからそこに居て。」等、静止の聞かない入居者や、身体的に不自由な入居者の世話をやきたがる入居者に対し言葉の抑制をしてしまうことがある。	身体拘束する事は無いが、行動を抑制する言葉掛けがみられるとの課題を認識している。言葉による抑制をしない対応ができるようになるため、対応の上手いといった事例を共有し、課題の改善に取り組んでいる。	

認知症高齢者グループホーム さくらハウス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待マニュアルを参考に定期的な勉強会の中で取り上げている。入居者の全身状態の観察を行いあざ等の確認と、精神状態の変化を見過ごさないよう職員間の連携も図っている。職員の精神的な変化にも気づけるように個別面談等も行っている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議の議題に取り上げ学ぶ機会には設けたが、職員一人ひとりの理解には至っていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い不安等への対応も行っている。入居してから新たに出てきた疑問点に関してもその都度対応できるようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や意見箱を利用しご家族の意見を伺っているが、会議への参加率が低く、運営に関する意見を伺うことができない。個別に来所された時に少しでも話を伺えるようにしている。	運営推進会議への家族の参加が少なく、家族からの意見を聞く機会は支払いや面会時に限られる。家族からの意見苦情は記録として残されているが、運営に関する意見が出されることは少ない。	併設の小規模多機能型施設では利用者・家族へのアンケート調査を行い意見の収集を行っているので、グループホームの利用者家族に対しても同様の取り組みを行うなど、意見を表せる機会を設けることを期待する。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度行っている勉強会に管理者も出席し職員との意見交換を行っている。ケアに関することや業務に関する話を話し合える場となっている。	毎月の勉強会では、「虐待防止に関して」「事業所独自の理念の作成」「業務改善」など様々なテーマで学び、改善策が話し合われている。今年度は事業所独自の理念を全職員で作ったが、その作業過程での話し合いが有意義で、職員の意見が反映されて「納得が行く」理念が作られたと職員は感じて実践に活かそうとしている。見過ごされてしまうような小さな傷やあざに気付いた時には「いつどうしてできたのか」確認して記録することを徹底するなど、日常業務の見直しなども職員の提案を反映して行っている。	職員の意見が反映されて「納得がいく」理念が作られたと職員は感じて実践に活かそうとしているので、今後は理念に基づき更なるサービスの質の向上につなげていく努力を期待する。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	個別面談の機会を設け意向の確認をしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修受講に関して前向きに検討し、働きながら職員同士で学びの機会を設けている。		

認知症高齢者グループホーム さくらハウス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の別事業所との交流を持てるようにしている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人の好みや不快に思うことを確認し過ごしやすくてできる工夫を行っている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困りごとや不安に関して傾聴し、要望に関してもできる限り対応できるように心がけている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族のニーズを見極め対応できるように努力している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者それぞれの体力や能力の差はあるが、その方が出来ることは継続できるよう、集団生活では無く共同生活を送れるようにしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来所時には日頃の様子を報告し、毎月の行事等での様子をスナップ写真と共に文書にして送付しご本人の状況を把握して頂けるようにしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設している小規模多機能施設への行き来もでき、以前の知り合いとも交流が持てるようにしている。ご家族との外出や、居室での談話ができるようにしている。	事業所では家族が自由に訪れることを期待して面会時間に制限はなく、支払いや届け物で来所の機会を作り、また家族が通院介助を行うことで家族にも役割を担ってもらい共に入居者を支える関係を作っている。併設する小規模多機能型施設に来ている知人等と交流することで、馴染みの人になかなか会いに行けなかったり、行きたい場所に出かけられなかったりする状況を補っている。	馴染みの場所に連れ出すにも家族からの情報と家族の協力が無くてはできないことが多々ある。家族と一緒に出かけ等の協力をお願いするなどして、グループホームに入居しても家族や地域との関係が切れない工夫を心がけてほしい。独居の入居者には事業所が家族の役割の一部を補う配慮も期待したい。

認知症高齢者グループホーム さくらハウス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	草花が好きな入居者同士を園芸係にし、職員と共に管理している。レクが好きな入居者をリーダーに入居者同士で行える工夫もしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養への入所当初は、ご家族の不安もあり相談や支援を行っていた。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食器洗いや洗濯干し・たたみを行いたい入居者が重なってしまう時には一緒に行える配慮や、遠慮してしまう方へは別の仕事を作る等の工夫や声かけを行っている。	言葉で表現することがなくても、行動で何がしたいのか察知するよう職員は努力している。できることは自分で行うことを尊重し、ホールのモップ掛け、食器洗いなど役に立っていると感じられる仕事を用意し、感謝の言葉と共に一緒に行っている。家の犬に会いたいとの希望が叶わない入居者には、俳句でその思いを詠んでもらい作品にしたり、ぬいぐるみで代替する等支援を工夫している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人から、生活歴や今までの環境、趣味等への情報を得ている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別ケアを中心に、一人ひとりの1日の流れを把握し、身体状況及び精神状況の変化にも対応できるよう現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を決め担当ごとに介護計画を作成しているが、意見交換がスムーズに行えていない。モニタリングは職員全員で行うことにしているが、まだ十分に実施できていない。	ケアプランはケアマネージャーの資格をもつ管理者が作成、担当者と共に検討している。日常のケアで気が付いた内容は、業務日誌や対応時の様子が書かれた申し送りノートを活用して計画作成の参考情報にしている。モニタリングの内容は評価表に反映され計画の見直しに活かされることになっているが、全職員での取り組みとまでは行かず、管理者に負うところが多い状態である。	

認知症高齢者グループホーム さくらハウス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や経過についての個別記録への記入はできていて、職員間での情報の共有も申し送りノートを活用し実践できている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズや状態の変化に伴い、他施設への検討などを行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学校との交流会や、ボランティアの慰問、蕎麦打ち等を実施している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続してもらい、ご本人の状態にあった医療を受けて頂けるようご家族の協力も得ている。ご本人の体力等にも配慮し、往診していただき適切な医療を受けられるようにしている。	入居者のかかりつけ医への定期的な受診の付き添いは家族が行っているが、家族が高齢等で付き添えない場合は職員と一緒に受診している。家族の希望により、通院時に事業所が書いた入居者の日頃の様子や質問を持たせている例もある。診察の結果は家族から事業所へ報告してもらい、ケース記録や申し送りノートに記入し、情報を職員間で共有している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も介護職として共に業務に従事している中で、医療的な支援の必要性について相談し適切な判断を下している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院関係者との情報交換を行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、グループホームで出来ることの限界について説明し看取りに関しても未定であり、今現在は行える状況には無く、医療的な処置が必要な場合には病院での治療を勧めている。急変時には家族へ連絡し要望を確認する。	看取りについては、職員や正看護師の配置が課題であるが、いずれは取り組みたいと考えている。重度化や終末期の対応について、医療処置が必要になった場合には入院を勧め、急変時の延命治療をどうするかは早期から家族で話し合っておいて欲しいと、契約時に家族に伝えている。	看取りはいずれやりたいと考えていることであり、「重度化や終末期」について学習をすることが、将来に備えるためだけでなく、日頃の介護技術向上にもつながるよう取り組んで欲しい。

認知症高齢者グループホーム さくらハウス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制はできているが、全ての職員が応急手当や初期対応をできる体制では無い。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者も参加し、併設の小規模多機能施設と共に避難訓練は行っている。地域への協力体制は難しいが同法人の特養との協力体制を図っている。	年2回消防署の立ち合いで避難訓練を行い、うち1回は夜間を想定して実施しているが、事業所が火元などの状況を想定をするため、緊張感の欠けた訓練になりがちだと感じている。消防署や地域の消防団との日常的な連携がないので、災害時の行動について日頃から職員間で話し合い、例えば強い余震の時は入居者に布団を掛けて様子を見ることや、屋外に避難した入居者の見守りを入居者同士にやってもらってはどうか等の対策を共有できるよう努めている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人が嫌な思いをしないで過ごせるように心がけている。排泄への声かけにも気をつけ、排泄物も直接目に触れないように処理する工夫をしている。	入居者に接する時には言動を否定しないことや恥ずかしい思いをさせないように心掛けている。入浴を促す声かけやトイレの誘導の時には大きな声で言わない等言葉のかけ方に配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を表現しやすいような言葉かけや態度で接するように心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、起床時間や就寝時間、排泄の決まりも無く過ごして頂いているが、静止のきかない入居者が優先になり、待つ頂く方も居て、職員側の都合を優先してしまうこともある。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服を選んで着たり、整容には気をつけている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒に食事をし、配膳や後片付けも一緒に行っている。時々、お弁当等、好きな物を選べる機会も設けている。	食材会社から福祉食の食材を購入し職員が調理している。献立は食材会社が作るが、入居者が禁止されている物や嫌いなものは変更することができ、固い物は職員が細かくして提供している。献立にないパンや果物はおやつとして出している。	併設の小規模多機能型施設での饅頭作りに参加した入居者が非常に喜んだ事例を生かして、グループホーム独自で入居者が自ら作って食べる機会をぜひ作って欲しい。

認知症高齢者グループホーム さくらハウス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに適した量を配膳し、栄養バランスも考慮した献立になっている。食事量や水分量のチェックも行い管理している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	拒否や抵抗がある場合は無理強いせずに、出来る限り毎食後に口腔ケアを行い、義歯の状態や口腔内の状況を確認している。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えがあった時には何度でも対応し、排泄が自立していてもパットを使用している方には恥ずかしい思いをしないような声かけをし確認している。	骨折で入院し、歩行も言葉も不自由になって車椅子で退院してきた入居者が、トイレという言葉や行動に反応することに計画作成者が気づき、「歩いてトイレに行く」ことを目標とした介護計画を立て、半年後に目標を達成した例がある。また、頻繁にトイレに行きたがる入居者の要望に応えることが本人の気持ちを落ち着かせることになると職員間で共有し対応している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や適度な運動、必要時には便秘薬を使用し排便を促している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後に入浴の時間を設けている。拒否が強い方は無理強いせず、声かけの方法や対応する職員を変える等の工夫をしている。以前は夜間帯にも勤めていたが現在は夜間帯の入浴はできていない。	入居者は一日おきに入浴している。機械浴を利用するのは1人、他は浴槽の縁が可動式で低くなる個浴槽を利用している。職員一人で衣服着脱と入浴介助を行っている。拒否の強い人にも気持ちよく入浴してもらえるよう配慮をし、入浴できない時は清拭している。以前は職員を配置して夜間入浴を行っていたが、現在は希望者がいないことから、夜間入浴を行っていない。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋の温度や明るさの調整を行い、いつでも自分の居室でのんびり過ごせるように心がけている。		

認知症高齢者グループホーム さくらハウス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報を確認し、看護師の指導のもと全職員が把握に努めている。服薬の準備も全職員が責任を持ち準備し、症状の変化等への観察も行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者だけでレクを楽しめたり、草花の水やりやプチトマトの収穫等、それぞれに適した役割をその時々で提供している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1度は外出出来るようにしている。天気の良い日に思い立って出かけることもあるが、個別での外出は実施できていない。	月に1度は季節の花や紅葉等を見に外出するほか、天気が良いと希望者を募ってドライブに出かけたり、散歩をしたりしている。車酔いをするので車に乗れない人は職員が付き添って事業所の付近の散歩をしている。度々娘さんと自宅に戻り一緒に犬の散歩をしている入居者もいる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は施設で行っている。本人には現金は渡していない。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ハガキや手紙を書ける方には家族への手紙をすすめ、住所の記入や切手を張る手伝いは行っている。電話も希望時には対応している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	供用のホールからはプランターに植えられた花々を眺められるようになっている。テーブルや席の配置にも配慮している。	居間は木と障子の内装で落ちついた雰囲気、高い天窓があるので室内は明るい。夏には天窓から日射しが入り室温が上がるので、黒い遮光シートを天窓付近に張り、冬は外して室内を明るく温かくする工夫をしている。職員が鉢に花や野菜を植えて、室内からも見える場所に置き、入居者は手入れをしたり収穫したり眺めたりして楽しんでいる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に席を移動できるので、窓際の席に座りながら読書したり外を眺めることもでき、数人で集まりトランプやゲームを楽しむ事もできる。		

認知症高齢者グループホーム さくらハウス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、以前使用していた家具や使い慣れている物を持参するよう話している。家族の写真を飾ったり、好きな本や人形等を持ってきている方もいる。	事業所で用意している備品はカーテン、エアコン、洗面台、ナースコールで、入居者はベッド、寝具、衣装ケース、家族の写真、かわいがっている犬の身代わりにぬいぐるみなどを持ってきている。ベッドから落ちてけがのないようマットを敷いたり、骨折経験者には和室で就寝してもらったりしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示や居室のドアにはネームをつけて分かりやすくしている。		